



さくら

題字 足立区長 近藤 やよい
足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会
会長 中田 貢弘
編集 広報部
発行日 2013年7月1日
〒120-8510
足立区中央本町1-17-1
TEL 03-3880-5111

目次

民生委員PR週間	2
絵画・俳句表彰	3
こころの健康 フェスティバル	4
受賞者祝賀会 自主研修報告	5
認証保育園 絆づくり	6
がんばるおやじ達 編集後記	8



舎人第一小2年 柴田亜美 作 「大きな魚」



民生・児童委員PR週間を終えて思うこと

会長 中田貢弘

第二回PR週間を無事に終了する事が出来たのは、全民生・児童委員の皆様のご協力と福祉部や社会福祉協議会をはじめとする行政の格段のご支援があったことと、心から各位に御礼を申し上げます。

また、実行委員各位には、特に私がいつも申し上げている「One for all, All for one」「争いより友情、愚痴よりも建設、批判より理解」を理解して行動して下さった事に感謝申し上げます。

ただ、その中にいくつか課題もありました。

一つは「長幼の序」です。先輩方の長い経験も大事にしていただきたい。

二つ目は「報連相」(報告・連絡・相談)。言い尽くされた言葉ですが、もう一度考える時と思いました。

三つ目には、守らねばいけない事、変えてはいけない事は大事にしたいということです。例としては、決

められた期日、組織における構成、土日におけるイベントを守る事。そして新しい考えでプランを作ってくださいすることも大事です。

「心清ければ夢また清し」とあります。

「心」は心臓を表しています。

「志」士の前は之で目標に向かうこと。

「忠」心の中で片寄らないこと。

「恩」人に情けをかけて頼られること。

「忘」心の中で無くなること。等々。

全て物事には成り立ちがあります。よく前のことを検証して、物事を運ぶようにしたいと思います。

ここまで当会が来られましたのも、多くの先輩方の御尽力にあることを肝に銘じて、福祉行政の一端で努力していきたいと思えます。

これからも全民生・児童委員のご協力をお願いして、ご挨拶といたします。



民生委員・児童委員活動 普及啓発パレード



5月12日の日曜日、民生・児童委員活動普及啓発パレードに参加しました。各区の皆様がお揃いのジャンパーやハッピーを着て、騎馬隊の先導で歩きます。1000人もの委員が新宿通りを笑顔で、手を振りながらパレードを行いました。多人数ですので、歩道ではなく車道にて、各地区、各班のプラカードを目安に、地区責任者の後に従い、民生・児童委員の存在を広くアピールすることができたと思っております。

足立区の庁舎に帰ってからは、実行委員さんから民生委員としてのお話をうかがったり、感想文を書いていただくブース等がありました。福島から届いた野菜や海苔、お米の販売などが盛況でした。関係機関の職員さんには感謝で一杯です。
(11地区会長 須田陽子 記)



ミンジー君とビュー坊君も応援に来てくれました

さくら 絵画・俳句の表彰式

5月12日11時30分より、庁舎ホールにて、広報紙「さくら」に絵画・俳句を掲載させていただいた小中学生への感謝状贈呈式を執り行いました。

広報部会宮本部会長の開会の辞、中田連合会長よりの主催者の挨拶、来賓を代表して足立区教育委員会学校教育課石居部長の挨拶と続きました。その後、石居部長から11名の小中学生への感謝状及び記念品の贈呈がありました。記念品は、都立足立工業高校寄贈のペットボトルを再生した植木鉢とペンギンのキーホルダーでした。小中学生たちは、緊張しながらもはにかんだ面持ちで受け取っておりました。

広報紙「さくら」を支えていただいている皆さんの顔を拝見し、気の引き締まる思いのセレモニーでした。
(広報部 記)



第十一中学校吹奏楽部演奏



5月12日庁舎ホールにて、足立区立第十一中学校の吹奏楽部の演奏を鑑賞しました。

- 「アルシェナール」
- 「つけまつける」
- 「演歌メドレー ～北国の春・北酒場・川の流れのように～」
- 「スーパーカリフラジリスティックエリスピアリドシャス」

演目は以上4曲でした。

さすがに2012年度全日本マーチングコンテスト金賞の実力！素晴らしい迫力のある演奏でした。演歌メドレーでは、女子中学生の歌声もあり、中高年観客層の心もしっかり掴んでいました。
(広報部 記)



「綾瀬フラガール オハナ」のフラダンス発表

5/12

- * 開会式
- * バルーンアート
- * 相馬市特産品販売
- * 九中吹奏楽部演奏
- * さくら絵画俳句表彰式
- * 二胡演奏
- * 十一中吹奏楽部演奏
- * フラダンス発表
- * ダンス発表



「シューティングスター」のチャダンス



5/18

- *各部会報告
- *パネル展示
- *ふれあいコーナー
- *相馬市特産品販売
- *クッキー販売
- *映画「隣人」上映

部会報告



民生・児童委員の研究部会は、5部会から始まり、現在8部会まで広がりました。それぞれがI期三年間を有意義に活かし、関係機関と連携しながら学んでいる様子や、積極的に活動している様子が発表されました。（広報部 記）

被災地特産品等販売



チリン、チリンと鐘を鳴らし、福島県相馬市からの特産品販売開始の合図。ホールから出てきたお客さまがぞくぞくと並び出します。運び込まれた米、味噌、えごまのドレッシング、海苔、そして数種類の野菜が、テーブルの上に山積みになっています。

被災地の特産品ということで、買い物客は長い列が二重になり、大変な人気。「お米5キロ詰め、安いけど重いから持って帰れないわね」と残念がる声も聞こえてきます。主婦がほとんどなので、きゅうり、絹さや、アスパラガスなどの野菜がよく売れていました。（東綾瀬地区 河邊セツ 記）



作業所のクッキー販売

第2回 PR 週間実行委員会の思い

今回の実行委員は初めての方が多く、戸惑うこともありました。駅頭PRでのティッシュ配りなどに、もっと回りに気を配り、行動したいと思いました。また、協力を頂いた皆さんのご意見を、今後の民生・児童委員活動に活かしていきたいと思えます。

ふれあいコーナーでは、どこに相談したら良いかわからないとの声が多くありました。連絡先や行政機関の窓口を知らせる等、パイプ役としてお役に立ち、来て良かったとおっしゃって頂きました。また、今回も被災地支援として、現地のお米や野菜乾物等の販売、

障がい者支援として、施設で作られた、クッキーやパン、小物類の販売も、庁舎アトリウムで一週間行いました。区のご協力に感謝すると共に、有意義な支援が出来たと思えます。

第三回は、この経験を踏まえ、よりいっそう充実したPR週間になることを祈念して、実行委員会の思いとさせて頂きます。中田連合会長を始め、多くの民生・児童委員、主任児童委員の方々、行政関係各位のご協力が無事に終わる事が出来ました。深く感謝申し上げます。（星野雅夫 実行委員長 記）



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|--------|-------|-------|----------|-------|--------|-------|-------|-------------|---------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|----------|-------|
| 吉田 祐一 | 齋藤 祐子 | 関澤 和恵 | 高木 しのぶ | 齊藤 次雄 | 傳田 信子 | 澤村 千津子*1 | 岩木 和子 | 志賀口 博人 | 片野 富雄 | 神崎 守弘 | 星野 雅夫 実行委員長 | 飯塚 茂 顧問 | 小山 ケイ子 | 高橋 さだ子 | 土屋 幸夫 | 嶋村 定信 | 毛利 静代 | 古庄 行夫 | 丸山 まさ子 | 小林 正枝 | 竹内 祝子 | 須賀 はる子*2 | 大山 光子 |
|-------|-------|-------|--------|-------|-------|----------|-------|--------|-------|-------|-------------|---------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|----------|-------|

敬称略

*1実行委員 田中美代子（代理 澤村千津子）

*2実行委員 鈴木由美子（代理 須賀はる子）



3/2 ころの健康フェスティバル



3月2日強風の中、足立区役所庁舎にて、心の健康づくりと心の病について地域住民の理解を深め、足立区の精神障がい者の社会参加の促進を図ることを目的に『ころの健康フェスティバル』が開催されました。

17回目となる今回は、heart to heart ～明日へつなごう明るい未来～ をテーマに、開会式では榎本安行実行委員長、近藤やよい足立区長の挨拶に続いて第十一中学校吹奏楽部の“演歌”を含む素晴らしい演奏に会場の皆さんは感動しました。



午後には「明日を信じられるまちへ」と題して区長トークが、また、イタリア映画「人生、ここにあり！」の上映がありました。2階ホール前「ホワイエ」では、家族会相談“ころのおしゃべり場”が催され、障がいがあっても暮らせる社会をめざし、偏見や差別をなくすための懸命な取り組みを感じました。



恒例のバザーは、販売開始の11時45分には大勢の皆さんの行列ができ、13時30分頃には完売となり、今年も募金も含め529,229円の売り上げがあり、民生・児童委員の団結と行動力に誇りと勇気が湧いてきた次第です。

(写真 佐野地区 木内信雄 18地区 鶴田晴久 記)

2/12 受賞者祝賀会 綾瀬

平成25年2月12日 東京マリアージュで足立区民生・児童委員協議会 各種表彰受賞者祝賀会が行われました。

中田貢弘連合会長の挨拶で始まり、近藤やよい区長、渡辺ひであき区議会議長(2/12当時)、大谷隆興都民連副会長、川尻禮郎都民連顧問、各氏からのご祝辞をいただきました。表彰受賞者は、各区分ごとに名前を呼ばれ壇上へ、区長と一緒に記念撮影をしました。平成24年から区の表彰対象者の規約改正があり、多数の方が表彰されることができました。また、葛飾区民生・児童委員協議会合唱団もお祝いに駆けつけてくださいました。素晴らしい歌声を聞かせていただき『花咲く郷土』を全員で大合唱しました。



高齢者に寄り添う支援として、各関係機関と連携を取りながら『孤立ゼロプロジェクト』の立ち上げを進めているとお話もありました。

地域住民が安全安心に暮らせるように、これからも、委員として地域に関わり努めていきたいと思いました。祝賀会は、和やかな内に閉会となりました。

(14地区会長 薊登喜江 記)

妊婦、母子の子育て支援 第七合同花畑地区

地区自主研修会

花畑地区の自主研修は、4月17日桜花亭に於いて開催されました。

民生・児童委員として、かねてより母子保健活動について知る必要があると考えていたので、今回は「足立区における母子保健活動について」というテーマで、竹の塚保健総合センターの保健師、池場恵美子様に講演をお願いしました。用意していただいた小冊子と、プロジェクターの映像を見ながら、保健総合センターのスタッフの構成、妊婦の体調管理から出産まで、そして0歳～6歳までの発育成長のケア等、数々の取り組みについて説明を受けました。保健総合センターのき

め細かな活動に、認識を新たにしました。

私達民生・児童委員に、何ができるか考えた時、若いパパママに民生・児童委員の存在をPRして、色々な悩みの相談を受けやすくなることが、支援に繋がると思いました。池場講師に、花畑地区の住区センターでの母子活動に参加できるようにお願いをし、実りのある研修が終わりました。



(花畑地区会長 有馬妙子 記)



① 現時点までに起きたこと、行われた対処。

以下、報告書の抜粋です。

- ・仮設住宅の建築続く。
- ・原発事故後発生した、精神科医療の供給。
- ・4月から毎月各地で定例会を開始、検討内容は支援物資の配布と安否確認の方法、地域の状況報告であった。
- ・全避難所が閉鎖になるまで、各避難所での食事づくり、トイレの水くみを行った。
- ・仮設住宅への入居後、高齢者世帯、生活困窮世帯、身体障がい者、ひとり暮らしなど、離れて遠い仮設住宅地域まで出向いて、安否確認を実施。
- ・仮設住宅以外でも、借り上げ住宅の入居者への安否確認の実施。
- ・夜、眠れない、不安だ、という相談を多く受ける。
- ・仮設住宅が増えて遠くまで行くことになり、民生・児童委員の負担感が大きくなる。
- ・震災を機に、寝たきりになってしまった高齢者の増加に驚く。
- ・高齢者のひとり暮らしの住宅の放射能除染作業の支援。
- ・子育て支援事業の教室再開。
- ・仮設住宅を生活支援相談員のほか、さまざまなボランティア団体などが訪問する。
- ・民生・児童委員活動も平常通りとなる。

② 今後の課題

「民生・児童委員発 災害時一人も見逃さない運動」の正しい理解について

津波被害のなかった地域では、事前の想定や訓練が役立ち、スローガンを実践できました。しかし今後は、海岸地域の津波被害が予想される所では、民生・児童委員自身がまずわが身の安全を確保したのちに、安否

確認、支援活動を始めることの徹底が必要と思います。(津波てんでんこ…津波が来たら、それぞれが逃げろという古くからの言い伝え)

民生・児童委員への過剰な期待について

非常事態のなかで、担当者のいない事柄が多々発生し、仮設住宅の不満、要望、物資配布に関する苦情なども、民生・児童委員に持ち込まれたこと。活動するうちに、要援護者支援の範囲を超えて広がらざるをえない状況となってしまうこと。民生・児童委員は、どこまでやればいいのかという声も出たそうです。

民生・児童委員制度について、みなさんに正しく理解していただくことが必要と思いました。

(6地区 森春枝 記)



古千谷小4年 小松穂乃香 作

町会・自治会との連携について 第七合同17地区

社会福祉協議会の基幹地域包括支援センター根本浩典主査より、3件の事例を元に、お話していただきました。

- ① 千住仲町地区・平成14年東京都の調査で「地震危険度ワースト1」がきっかけで行政と住民が協働するまちづくり「熟年いきいき部会」を発足。声かけ運動・助け合いプラン作成等の取り組みにより、災害時1対1の支援体制ができた。
- ② 梅田地区・梅田通町会エリア(顔の見える生活圏)で区民事務所、地域包括支援センター、民生・児童委員、町会・自治会、あんしん協力員が協働して「梅田あった会」を設立。孤立防止の取り組みを実施。
- ③ 東京都東大和市「見守り・声かけ活動地区委員

会」(東大和市社会福祉協議会)ふれあい町作り事業として始まる。町会・自治会、民生・児童委員も参加。すべてが「ごく一般の市民」協力員として同じ立場に立ち、信頼関係・高い意識が育つ。

まとめ

関係機関を巻き込み、テーマを決めることで、関心が高まり、分かりやすく、様々な年齢の人が集まり、同じ立場で協働する。最後に個人情報保護について、意識が高まった一方「過剰反応」が見受けられる。誰もが安心して生活するためには、要援護者の把握・地域の見守り・支え合い活動が必要とのお話を伺いました。

(17地区会長 小宮俊一郎 記)



保育所に入りたのに入れないう待機児童のため、2001年に都独自の認証保育所制度がスタートしました。都心の諸事情を考慮して認可保育所より基準を緩やかにし、0歳児からの保育や13時間以上の開所等を条件として都や区市町村が運営費等を助成していますが、国からの財政措置はほとんどない状態です。

また足立区では、2年前から区独自に定める基準で小規模保育室を設置し、待機児童の減少に努めています。



しかし、公費で運営され所得に応じて保育料を負担する認可保育所に比べ、上限はあるものの保育料が一定の認証保育所や小規模保育室では親の負担が大きくなる側面もありま

す。

一方、幼稚園と保育所を一体化することで双方のメリットを生かした幼保一体化の動きも出ています。8年前から幼保一体型をスタートさせ、2012年4月からこども園として開園した「おおやたこども園」を見学させていただきました。小学校2校と中学校・高校に囲まれた文教地区にある同園は、ゆとりある間取りと恵まれた保育環境にあります。地域との交流と見守りの中で大切にされ、子どもたちは伸び伸びと育っています。幼保一体型スタート時の戸惑いや行き違いも、職員の熱意と保護者の協力で改善していった、とのこと。今後に期待したいと思います。

いつの世でも子どもは希望の宝物。次世代を担う彼らにより良い環境と温かい見守りを願わずにはいられません。

(広報部 花畑地区千葉祐子 竹の塚地区小島千恵子 記)

児童虐待 子ども3部会（子育て・児童・主任児童委員）活動報告

民生委員として虐待の早期発見と予防をどう捉えたら良いのか。子ども達の命にも関わる大切なこの問題に、講師である越谷心理支援センターの秋山邦久所長の講演から見えてきたことをまとめてみました。

①自分達のできる範囲で、ある程度の知識をもって接すること。②子どもの心には触らず、その親を支えるように心がけること。③上手な褒め方や叱り方を身に付けること。上手な褒め方は3s（スリーエス）。「さすが、すばらしい、すごい」をさりげなく言う。一方で、上手な子どもの叱り方は、片方の目だけを見て無表情でしらっとして叱る。また、3つ叱って5つ褒める等を常に心がけることが大切です。

子ども達を守るために、専門家の要請が必要となることもあります。周囲の大人たちがきちんと対応することで、子ども達は変わっていきます。まず民生・児童委員としてできることに着実に取り組んで行く等、講師からのアドバイスをこれからの活動の参考にしていきたいと思いました。

(主任児童委員部会長 小宮謙治 記)



百人一首大会 千寿桜堤中学校

1月12日(土)の土曜授業を2時間費やし、毎年恒例の百人一首大会が行われました。当日は朝から絵札を体育館に運び入れたり、畳を並べたり、係の生徒も手伝い、大会を成功させるために力を合わせました。体育館には、去年の1年生が作成した模



造紙15枚ほどにもなる巨大な絵札とともに、2年生が秋から作り始めたベニヤ板大の絵札20枚も飾りました。

読み手は各学年の担当教員が行い、交代する際には自然と生徒から拍手が起こっていました。今年は残念ながら、授業内で練習をすることができない中で百人一首大会となりましたが、参加した全員が1枚でも多く札を取ろうと懸命に頑張っていました。個性的な読み手も多く、札を取ることができた時には、大きな歓声上がるなど、とても楽しい雰囲気で行うことができました。

大会後は全員で畳を片づけ、その後、PTAの方から白玉の差し入れを、体育館でおいしくいただき、充実した一日となりました。

(千寿桜堤中学校教諭 政岡真帆 記)

足立区は活動記録提出100%継続中です



絆づくりシリーズ1 孤立ゼロプロジェクト 先行実態調査報告



平成24年9月の中央南町会自治会連合協議会にて、区の絆づくり担当課より初めて「孤立ゼロプロジェクト概要」の資料が配布されました。その後、区の条例改正がなされ、当町会（足立日吉町会）は先行調査町会のひとつとなりました。

12月の町会定例会に、上遠野絆づくり担当課長が出席され、資料の説明を受けました。1月末に、町会長、防災・防犯・総務の各部長、民生委員を当町会の調査員に決定して、区に書類を提出しました。私は民生委員としての自主巡回時、あるいは日吉和合クラブ（老人会）主催の定例各種イベント時に、区が「孤立ゼロプロジェクト」を立ち上げて、調査対象者には、2～3月中には訪問アンケート調査することを事前にお知らせしました。各種イベントに参加・出席する人は、70歳以上でも日常生活の中で自立していて、元気に過ごしている人が多いので安心です。

第1段階としての今回の調査対象者は、70歳以上の

独居高齢者と75歳以上の夫婦高齢者世帯のなかで、デイ通所、ショートステイ、ヘルパー利用など、介護保険の利用を全くしていない人たちです。

さて、指定された戸別訪問、実態調査を始めると、転居していたり、調査拒否もあつたりしました。また、住民登録を分けているのに、実は息子や娘が同居していて独居高齢者でなかったり、介護保険を利用しているのに記載もれであったり、区からのデータの新旧によりかなり現状と相違していました。調査によって、さまざまな実態が把握されました。



皿沼小2年 すず木まとや 作

(6地区 森春枝 記)

お世話になりました



中田連合会長を始め、民生・児童委員の皆様からの温かいご指導をいただき、何とか民生係長を3年間努めることができました。区内に在住する区民の一人として、皆様の日頃の活動が、どれだけ心強く、頼りになるのかを知ることができました。

民生係で得た経験と知識、さらに先生方からいただいた温かい励ましを今後の糧として、新しい職場であります足立清掃事務所において、仕事に活かしていきたいと強く思っております。これからもよろしく願いいたします。

足立清掃事務所 車両係長 長谷川 澄雄

よろしく申し上げます



4月1日付けで、民生係長に着任しました高橋朋子です。福祉の仕事は、入区時に配属された足立福祉事務所（現千住福祉事務所）で5年間経験して以来となります。係長としても、また、福祉担当の一職員としても甚だ未熟ではございますが、民生・児童委員の先生方にご指導・ご鞭撻を賜り、これまでの経験を活かして精一杯努めさせていただきます。4月に転入した3人のニューフェイス共々、どうぞよろしく願いいたします。

民生係長 高橋 朋子



古千谷小5年 荒木大地 作

足立区立入谷中学校

中学生俳句コーナー

夕立が 一つ出て行くのが 迷っている 一年 濱元 海陽

向日葵が 息を合わせて 首をふる 一年 脇 千春

日焼けして カニとおどろい 赤い顔 一年 宮野 里穂

咲き誇る 花の誘いで 蝶が飛ぶ 二年 古庄 左季

シロワシロワと サイダーの泡 夏が来た 二年 山本 唯

都会でも 見えるもんだな 夏の星 二年 稲部 那奈

紅葉の葉 赤く染まって 照れている 二年 眞田 季咲



我々パトロール隊の発足のきっかけは、ソフトボールを通じて親交のあった千住地区の六つの小学校（千寿・双葉・桜・本町・千八・常東）の保護者（お父さん）が、「大人だけが楽しんでいるだけでいいのだろうか？」「自分たちの住んでいる千住の街にパトロール等を通じて役立つことができないだろうか？」との疑問から始まり、その趣旨を約120人の保護者から賛同を得て、平成18年6月に発足しました。

平成19年6月からは、青色回転灯車両（通称「青パト」）に乗りしてのパトロールも始まりました。毎日パトロール活動をするのは無理があるので、「できる人たちができる時に無理なく！」をモットーとしております。隊員の中には、パトロール後のお酒を目的として

いる輩もいますが、街中で我々を見かけたら、手を振って応援してください。

（ガーディアンシップ代表 青砥誠 記）



終末期医療 シリーズ1 緩和ケアとは…？

緩和ケアと4つの痛み

もし、あなたやあなたの大切な人ががんになり医師から「残念ながら治る見込みはありません」と告げられたら、あなたはどのようにしますか？大切な人あなたは何をしてあげますか？

緩和ケアとはこのような方々へのサポートを専門家がチームとなって行うケアです。さて緩和ケアが対象とする痛みについて考えてみます。医師であり看護師でもあったイギリスのシシリー・ソンドースは、患者の苦しみ（苦痛や苦悩）に関連するすべての要因を包含して捉える考え方「全人的痛み（トータルペイン）」を1967年に提唱しました。

全人的痛み（トータルペイン）

①身体的な痛み

全身倦怠感、食欲不振、呼吸困難感、嘔気・嘔吐、便秘など病気による痛みや苦痛、化学療法や検査による痛みや苦痛、その他の身体的症状・副作用

②精神的な痛み

不安、いらだち、孤独感、おそれ、抑うつ状態、怒り、せん妄、意識障害

③社会的な痛み

仕事上の問題、経済上の問題、家庭内の問題、遺産の問題、遺言、人間関係

④スピリチュアルペイン

なぜ、自分はこの世に生まれて来たのか？なぜ死んでしまうのか？といった人生の意味への問いや価値体系の変化、苦しみの意味、罪の意識、死の恐怖、神の存在への追求、死生観に対する悩み、これらの痛みを出来る限り和らげることが、すなわち緩和ケアだと言えます。

次回は緩和ケアを受ける場所やケアを担う職種についてご紹介します。

（医療法人社団福寿会在宅総合支援センターふくろう 主任介護専門員 弓狩幸生所長 記）

編集後記

「昔の人の話」として大正生まれの母が多くの話をしてくれました。例えば、「背負い水」。人は一生の水を背負って生まれてきて、無駄にすると老いて水に困るというものです。「親の恩は子に返せ」。親には恩は返せないもので、子につくしなさい。

考えるに、孔子も昔の人。弟子が「数ある言葉の

中で一つ選ぶなら何か」と尋ねると、孔子は「仁、つまりおもいやり。自分が厭だと思ふ事は人にしてはならない。」と答えました。まさに昔の人の話は教育の原点ではないでしょうか。

（10地区 川島恵美子 記）

小学生掲載絵画および中学生詩歌、俳句の依頼は、第一合同から第七合同の小・中学校へ順番にお願いしています。また、皆様からの原稿も募集いたします（原稿は未発表のものに限ります）。次号発行予定日11月1日
なお、原稿に関しては紙面の都合がございます。事前に地区広報委員にご相談ください。

広報部会

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|--------------|------------|------------|-----------|------------|----------------|------|--------------|------|------|------|-------|------|-------|--------------|------|------|-------|-----|------|------|-------|-------|------|
| 部長
宮本勝男 | 副部長
川島恵美子 | 書記
渡邊照美 | 会計
池田信江 | 編集
森春枝 | 校正
秋本雅信 | レイアウト
薮下奈穂美 | 北村信也 | 編集委員
鶴田晴久 | 木内信一 | 加藤宏一 | 松島勝己 | 阿部美代子 | 千葉祐子 | 金子みどり | 校正委員
江川明美 | 粟野昌子 | 河邊セツ | 井上みよ子 | 梶宏次 | 鈴木静江 | 関根恵子 | 北川富美子 | 小島千恵子 | 栗原和子 |
|------------|--------------|------------|------------|-----------|------------|----------------|------|--------------|------|------|------|-------|------|-------|--------------|------|------|-------|-----|------|------|-------|-------|------|